

☆福岡大学病院診療科一覧☆

診療科名	腫瘍・血液・感染症内科	内分泌・糖尿病内科	消化器内科	腎臓・膠原病内科	循環器内科	呼吸器内科	神経内科	健康・管理内科	総合診療部	東洋医学診療部	精神神経科	小児科	消化器外科	呼吸器・乳腺・小児外科	整形外科	形成外科	脳神経外科	心臓血管外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	放射線科	麻酔科	歯科口腔外科	リハビリテーション科
	毎日	毎日	毎日	月・火・水・木・金	毎日	月・水・木・金	毎日	月・火・木・金	毎日	初診 月・木 再診 火・木・金・土	※予約制	毎日	毎日	毎日	月・水・木・土	※予約制 月・木	月・水・金	火・木	毎日	※予約制 月・火・金	火・木	※水は予約制	月・火・水・木・金	月・火・水・木・金	月・水・金	毎日	

【診療受付時間】

◎初診：(月～土) 8時30分～11時00分 ◎再診：(月～土) 8時30分～11時00分
※休診日：日曜・祝祭日 盆休(8/15)・年末年始(12/29～1/3)

交通のご案内



六本松・別府2丁目バス停から(所要時間 約15分)
14番、18番、114番、140番で福大病院経由のバスにご乗車ください。

西新から(所要時間 約30分)
脇山口バス停で、95番の福大病院経由のバスにご乗車ください。

自家用車で来院の方へ

九州自動車道、福岡都市高速道路を利用する場合
九州自動車道、太宰府ICより福岡都市高速道路を経由し、堤ランプで降り、国道202号線(福岡外環状線道路)に入り2kmほど直進して、福大トンネル出入口手前で右折し福岡大学病院方面に向かい福大病院東口交差点を右折してください。

西九州自動車道を利用する場合
西九州自動車道(福岡前原道路)拾六町インターチェンジで降り、国道202号線(福岡外環状線道路)の青果市場入口交差点を右折する。国道202号線(福岡外環状線道路)を4kmほど直進し、福大トンネル出入口手前で右折する。梅林中学校交差点を左折後300mほど直進し、福大病院南口交差点を左折してください。

国道202号線バイパスを利用する場合
※ 天神、六本松方面から来院される方は、国道202号線(A別府橋通り)の中村大学前交差点を左折し3kmほど直進し、七隈四ツ角を過ぎると右側に病院が見えてまいります。
※ 福重、原方面から来院される方は、国道202号線(C今宿新道)の荒江四ツ角を過ぎ、国道202号線(別府橋通り)の中村大学前交差点を右折し3kmほど直進し、七隈四ツ角を過ぎると右側に病院が見えてまいります。

国道263号線を利用する場合
※ 西新、荒江方面から来院される方は、国道263号線(D早良街道)の野芥四ツ角を左折し、県道49号線を1.2kmほど直進し福岡大学病院方面に向かい福大病院南口交差点を左折してください。
※ 三ツ瀬、曲淵方面から来院される方は、国道263号線(早良街道)の野芥四ツ角を右折し、県道49号線を1.2kmほど直進し福岡大学病院方面に向かい福大病院南口交差点を左折してください。

福岡大学病院 〒814-0180 福岡市城南区七隈七丁目45-1
TEL (092)801-1011(代)

発行：医療情報部 URL：http://www.hop.fukuoka-u.ac.jp/

福大病院ニュース



(平成22年12月 竣工予定)

福岡大学病院の基本理念
あたたかい医療



- 高度先進医療の指導的病院
- 健康のための情報発信基地
- 地域に開かれた中核的医療センター
- 社会に必要とされる優れた医療人の育成
- 社会のニーズに応える患者中心の医療の提供

患者さんの権利について

医療は医療者と患者さんとの信頼関係で成り立っています。患者さん一人一人が医療の中心となり、以下の権利と責任(患者さんの権利に関するリスボン宣言)があることを福岡大学病院の職員一同は認識します。

1. 患者さんは常に人間としての尊厳と、差別のない安全で最善の医療を受ける権利があります。
2. 患者さんは医師や病院あるいは保健サービス施設を自由に選択し変更する権利があります。
3. 患者さんは検査や治療について、その目的、もたらされる結果などについて、十分に説明を受け、納得の上で選択あるいは拒否の決定を下す権利があります。
4. 患者さんは自分自身に関する情報を開示され、自己の健康状態について十分な情報を得る権利があります。
5. 医療上得られた個人の情報やプライバシーが守られる権利があります。
6. 患者さんは健康について保健教育を受ける権利があり、自分の健康に対する自己責任があります。

新年の挨拶



福岡大学病院長
内藤 正俊

新年あけましておめでとうございます。新春を迎えるにあたって、皆様に福岡大学病院の現況や事業の進捗状況と今後の抱負についてご報告申し上げます。

福岡大学病院の現況ですが、外来患者延数は約33万人、入院取扱患者数は約27万人で推移し、ここ数年余り変動していません。しかし手術件数はうなぎ上りです。平成17年度は6,572件でしたが、平成19年度は6,887件になっています。毎年150件前後手術が増加し、益々忙しくなっています。一方、若手医師の大学離れが続いています。2007年度医師臨床研修マッチングでも63名の募集に対し僅か35名の応募しかありませんでした。この減少に歯止めをかけることが喫緊の課題と考え、平成20年度から卒後研修1年目と2年目の給与の増額を行いました。また医師に偏っている業務を減らし、他の職種との効率的な連携を行うための業務連携検討委員会を立ち上げました。平成20年度末までに具体的な改善案が出る予定です。これらの対策や卒後臨床研修センターの努力があり、福岡大学病院の2008年度医師臨床研修マッチングの最終結果は55名の募集に対し100%の応募がありました。定員充足率が高い順、同率の場合はマッチ者数の多い順での全国ランキングで福岡大学病院は慶応大学病院と同じ6位になっています。

本年の最大の事業は、第Ⅲ期統合医療情報システムの導入と新診療棟の建設です。元旦からオーダーリングシステムが更新され、コンピュータの操作に戸惑っている職員がいると思います。さらに7月から診療録を電子化する予定となっています。新システムに慣れるまで、来院者の方々には待ち時間が長くなる等、多大のご迷惑をおかけいたしますが、電子カルテシステムにより医療の質の向上だけでなく、データや画像を豊富に用いた分かりやすい説明、迅速な事務処理などの患者サービスの向上が可能になります。電子的な個人情報に対する厳重なセキュリティーシステムを同時に構築致します。2008年10月に着工された新診療棟は、1階から3階までのセンター化した外来と4階から7階までの病棟(204床)になります。新診療棟の開院準備とともに隣に設置される講演会のための「メディカルホール」、「同窓会ラウンジ」、「メディカルフィットネスセンター」に対する手配も開始しています。

今後の抱負ですが、病院の理念であるあたたかい医療を推進するとともに職員各自が能力を存分に発揮し、達成感や成長感をより感じられる職場を創りたいと考えています。業務連携検討委員会の答申を待って着手したいと思っています。



禁煙補助薬について



薬剤部
薬剤師 上野 雅代

タバコの煙には、人間の身体に害のあるニコチン、発がん性物質・発がん促進物質、一酸化炭素など、4,000種以上の化学物質が含まれており、それらの有害物質は喫煙者が吸う煙(主流煙)よりも周りの人々が吸う煙(副流煙)の方に非常に高濃度含まれています。喫煙により、肺がん、食道がんをはじめとする種々のがん、心筋梗塞・狭心症など心臓の病気、慢性気管支炎・肺気腫などの肺の病気、胃・十二指腸潰瘍などの消化器の病気、糖尿病など、いろいろな病気のリスクが増大します。また、手術後では創傷治癒遅延や合併症を増加したり、妊婦の場合には、低体重児、早産、妊娠合併症の率を高めたりします。さらに薬の効果にも影響することがあり、喫煙をすることで、薬の効果が強く出すぎたり、弱くなったり、副作用を発現したりすることがあります。

禁煙を行うことで、動悸・息切れの改善、痰や咳の減少、発がんリスクの低下などが報告されており、禁煙を始めるのに遅いということはありません。しかしながら、タバコの煙に含まれるニコチンには強い依存性があり、禁煙することは、習慣を大きく変えなければならないため、なかなかうまくいきません。そこで、2006年4月から禁煙治療に一部保険が使えるようになりました。これは喫煙を単なる習慣や嗜好と考えるのではなく、喫煙を病気(ニコチン依存症)としてとらえ、必要な治療を行うということです。病院では、禁煙補助薬といわれるお薬を使用し、禁煙に導く治療法を行っています。

禁煙補助薬とは

禁煙を始めた時に現れる離脱症状(タバコを吸いたい、イライラなど)は、ニコチンづけになっていた身体の中から、急にニコチンがなくなるために起こるものです。この離脱症状に対し、一時的にその症状を軽減し、禁煙を容易にするために使用するお薬を禁煙補助薬といいます。禁煙補助薬の使用を希望する際は、使用する前に医師または薬剤師に御相談ください。

禁煙補助薬の種類

禁煙補助薬には「貼るタイプ」、「噛むタイプ」、「飲むタイプ」と、3つのタイプのお薬があります(表1)。ニコチンパッチ及びニコチンガムはニコチンを補充することにより、離脱症状を軽減します。また、新しい飲み薬であるバレニクリンは、ニコチンを補充するのではなく、つらい離脱症状を軽減し、喫煙による満足感を抑制します。

薬剤部では

福岡大学病院では、2007年1月より敷地内全面禁煙とし、2007年4月より保険診療として禁煙外来を行っています。薬剤部では、禁煙外来を受診後に、禁煙補助薬を初めて使われる方・継続して受診されている方に、お薬の使い方、注意点や副作用の対処法などについて説明を行っています。今後もよりよいお薬の情報提供ができるよう努力してまいりますので、お気軽にお尋ねください。

表1. 禁煙補助薬の種類

	 ニコチンパッチ	 ニコチンガム	 バレニクリン
特 徴	ニコチンを皮膚から吸収させる貼り薬	口の中の粘膜からニコチンを吸収させるガム製剤	ニコチンを含まない新しい飲み薬
使用 方法 使用 期間	一般的には朝貼付します。効果は1日中持続します。禁煙開始日から使用し、8週間の使用期間内に、一定期間をおきながら、サイズを大きいものから小さいものに切り替えます。	タバコを吸いたくなった時に、1回1個、30～60分かけて、ゆっくり噛みます。禁煙開始から使用し、12週間の使用期間を目安に、徐々に使用個数を減らしていきます。	禁煙を開始する1週間前から飲み始め、12週間服用します。
良 い 点	1日1枚、腕、お腹、背中 of のいずれかに貼るだけなので使用方法が簡単です。	タバコが吸いたくなった時に使用でき、口寂しさを紛らわせます。	禁煙時の離脱症状だけでなく、喫煙による満足感も抑えます。肌の弱い方、ガムが噛めない方でも使用できます。
主な副作用	皮膚のかぶれ・かゆみ、頭痛、不眠など	口内炎、のどの痛み、吐き気、胸やけ、食欲不振、下痢など	吐き気、不眠、眠気、めまい、頭痛、おならなど
備 考	禁煙外来で健康保険使用可能 薬局薬店で購入	薬局薬店で購入	禁煙外来で健康保険使用可能